



研究テーマ： マネジメント関連特性診断による組織・チーム状況の効果性の向上

研究者： 橋本 堅次郎

HASHIMOTO Kenjiro

(経営経済学部経営経済学科 教授)

【研究・開発の目的】

マネジメントは組織（チーム）を使って成果を出すというのはピーター・ドラッカーの説明であるが、実務者として組織・チームを使って成果を出すとはどういうことなのか。また個々の管理者が組織・チームを使えるようにするにはどうするのか。成果を上げるためにマネジメントの要素は何であり、各要素において個々の状況を知るための診断モデルを開発し実務家の成果発揮に貢献することを目的とする。

【研究・開発のきっかけ】

筆者自身が実務家として成果を出すためにどうして良いかわからずに試行錯誤した。失敗も挫折もあったがなんとか管理者として成果を出すまでに至ることもあった。もっと実務家の方へ管理者としてのモデルの提示と能力向上に寄与できないかと考え開発を始めた。

【研究・開発の概要】

右下図にあるようにチームマネジメントを概念図としてまとめた。ベースになったのはGEで使用されているチーム概念図「GRPI」である。さらにウオーレン・ベニスのマネジメントとリーダーの違いについて相違に関する考え方を加味した。チームマネジメントについて社会人の方との議論やビジョナリーカンパニー（ビル・コリンズ）の要素も取り入れV・GRPIの概念図を作成した。

特性診断については下記の6診断モデルを作成中である。

- ①外部環境指向性
- ②変革・管理指向性
- ③仕事への興味・関心
- ④チーム状況診断
- ⑤行動特性診断プログラム
- ⑥フォローシップ特性診断

【研究・開発の特色】

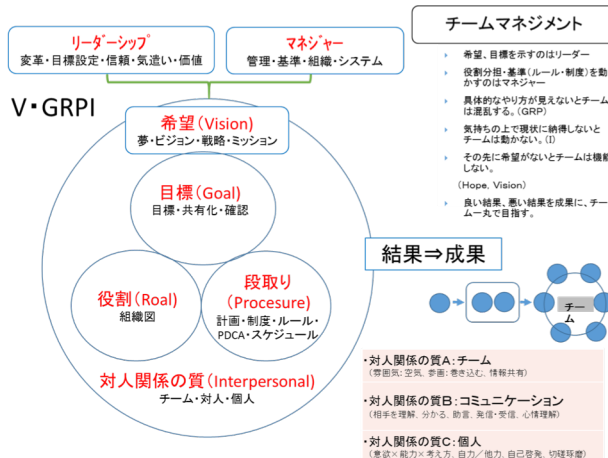
マネジメント特性診断のベースになるモデルはあるが実際に使用するにあたって言葉が難解であったり、表現が古く現在では使いにくい設問もある。そのため実際に社会人や学生に試用しより使いやすい実務に即したモデルの開発を行う。また個別には診断があってもトータルで診断を試みる事例は少ないと思われる。

【今後の展開】

関連の診断に関するベースは出来たので今後は実際の企業において設問が適正かどうかの検証を行い受験者の意見も聞きながらより使いやすい診断モデルを作成したい。

【今後の課題】

モデルの設問の検証とモデルが現在の類型で良いのかの検討が必要である。



【地域・企業へのメッセージ】

当研究室ではマネジメントをテーマに実際に実務で成果を上げる方法を研究しています。外部環境が変化していく中でマネジメントによって企業や組織の成果を出していくことが出来る人材の育成に貢献できればと考えています。